

新発田市 平成 29 年度 第 7 回定例記者会見

1 日 時 平成 29 年 10 月 3 日（火）午前 11 時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

- 大倉喜八郎の別邸の一部「葺春閣」^{そうしゅんかく}の寄贈について
- 「新発田市地域づくり支援センター」がオープン
- 市職員研修「普通救命講習会」
- 札の辻広場のイベント「羽越水害復興 50 周年記念事業特別展示」
- 「新発田っ子 弁当づくり道場」
- 「潟コン×Komachi 婚活サークル in しばた」
- 市島邸企画展「文明開化の明りと暮らし」
- 「FM PORT presents クッキングラボ@イクネスしばた」&「出張野菜直売会」
- 「たかいよしかず先生によるキャラクター立版古教室」^{たてばんこ}
- 札の辻広場のイベント「しばた軽トラ市」
- 札の辻広場のイベント「札の辻親子広場～楽しく遊んで！キレイにリラックス～」
- 札の辻広場のイベント「札の辻酒場だよ 全員集合！」
- 「しばた 100 円商店街」
- 「全国うまいもん横丁」
- 「健康づくりフェスティバル」
- めざせ 100 彩「紅葉ウォーク」
- 「新発田市美術展覧会（市展）」・「ジュニア展」
- 「新発田市芸術祭・らんちゅう展」
- 「新発田市芸術祭・秋季趣味の展示会」
- 「秋を彩るバレエ及び日舞・ダンス&ダンス」
- 「伝統芸能のつどい」
- 「秋の民謡とおどり」
- 「新発田マジック文化祭」
- 市職員がアルビレックス新潟応援企画「スタジアム満員プロジェクト」を支援

あいさつ

- このユニフォーム姿に驚かれたかもしれませんが、ご案内のとおり、アルビレックス新潟が危機的な状況を迎えています。J2 に落ちるのではないかと、いううわさが飛んでいるようです。

- 何とか踏みとどまってもらおうという思いで、アルビレックス新潟から、「スタジアム満員プロジェクト」の一環として、新発田市にも協力の要請をいただきました。
- 当市の五十公野公園陸上競技場は、アルビレックス新潟の練習会場であり、アルビレディースの試合会場でもあります。また、市の職員として、アルビレディースの高橋美夕紀選手を雇用しています。
- そのような縁もあって、要請に応えようということで、12月上旬の最終戦の前日まで、スポーツ推進課がある6階の職員が、このユニフォームを着用しようというものです。
- ぜひJ1にとどまっていたくよう、最後まで精一杯応援したいと思います。
- さて、稲刈りも大分進んでおり、秋の実りを心配していました。長雨による日照不足等が懸念されましたが、農家の皆さんの話を総合してみると、ほぼ例年並みに近いのではないかという、うれしい報告を聞いたところです。
- 昨年が、あまりに良過ぎたので比較にはなりません、平年並みに近い状況ということで、当市にとっては基幹産業である農業の収穫、収入によって、まちがどうなるか、産業がどうなるかということに直結している、胸をなでおろした状況です。
- 以前の記者会見でも報告しましたが、「首都圏しばたサポーターズクラブ」の立ち上げに伴い、先日、東京へ行ってきました。
- 12人の若者に集まっていたきました。学生も含めた、主に20代のメンバーと交流して、サポーターズクラブの「核の核」のようなものを作ってきました。
- 新発田にゆかりのある居酒屋を会場に、たいへん有意義な時間を過ごさせていただきました。
- 若いメンバーと話して、改めて思ったことは、彼らもやはり故郷が好きなんだという想いです。出席した大学生のほとんどが、帰りたいと思っていることがはっきりと分かりました。
- ただし、彼らを受け入れるだけの雇用の多様性が、新発田のような地方にはないため、総じて志望は市役所や公務員関係ということですから、なかなか

彼らの夢をかなえることはできませんが、若者が新発田を愛しているということは実感としてわかりましたし、ふるさとへの回帰の想いは持っているということを改めて感じ、有意義な会の立ち上げになったと思っています。

それでは、会見項目の説明とします。

最初に、大倉喜八郎の別邸の一部「^{ぞうしゅんかく}蔵春閣」の寄贈について。

- この度、公益財団法人大倉文化財団から、大倉喜八郎が明治 45 年に東京・向島に建築した別邸の一部「^{ぞうしゅんかく}蔵春閣」の寄贈を受ける運びとなり、9 月 25 日に正式に寄贈の申込書を受け取りました。
- 「^{ぞうしゅんかく}蔵春閣」は、政界の大物や海外からの賓客をもてなすための「迎賓館」としての役割があり、伊藤博文、^{いとうひろぶみ}山形有朋などの歴代首相や、^{しぶさわえいいち}渋沢栄一、^{やすだぜんじろう}安田善次郎などの実業家が招かれていました。
- 建物は、木造 2 階建ての入母屋造で、延床面積は 297 平方メートルです。外観は和風ですが、内部装飾は和洋折衷で、1 階には食堂と書斎があり、帝国ホテルのシェフによる料理を楽しんだり、舞踏会を催したりしたようです。
- 2 階は 33 畳敷きの大広間と^{ひろえん}広縁があつて、隅田川や富士山を眺めることができ、豪華な内装とともに、賓客をもてなすための工夫が随所に施されていました。
- 昭和 30 年代に千葉県船橋市に移築された後、平成 24 年に財団に寄贈され、将来的な移築保存を考慮して解体されました。現在は、イスやテーブルなどの調度品とともに、部材の状態で保管されています。
- 平成 26 年に初めて、当市の顕彰団体「大倉喜八郎の会」から移築に関する話がありました。以来、財団をはじめとする関係団体と、約 3 年に渡って協議を重ねてきました。
- 当初は、市が運搬や工事の経費を負担するという条件があり、その額が数億円にも及ぶため、一度はお断りしなければならない状況でした。
- しかし、今年度の協議の中で、移築に係る全ての経費を財団が負担するという提案をいただいたことから、今回、寄贈を受ける運びこととなったもので

す。

- 財団からは、「地域活性化のために活用してほしい」との要望を受けており、今後は、庁内に検討組織を立ち上げ、移築場所を含めて、活用方法の検討を進めたいと考えています。
- 「大倉集古館」の大倉喜彦さんから聞いた話では、明治宮殿の名残を残す唯一の建物だそうです。明治宮殿は明治天皇の皇居で、その宮殿を造ったのが大成建設の前身である大倉土木です。その様式を模して大倉喜八郎が、蔵春閣を造ったということです。
- 明治宮殿は、先の大戦で焼失しており、その様式を残す唯一の建物だということからも、蔵春閣がたいへん貴重な建物だと言えます。

次に、「新発田地域づくり支援センター」について。

- 10月10日（火）、新発田市ボランティアセンター内に、「新発田地域づくりセンター」がオープンします。
- これは、自治会やNPO、企業、行政などの間に立って、地域の課題を解決するための活動を支援する、いわゆる「中間支援組織」で、当市では初めての取組です。
- 具体的な支援としては、専門のコーディネーターが相談に応じ、支援センターのネットワークを通じて、他団体との連携を進めたり、人材を紹介したりします。
- また、団体の活動やイベントなどの情報を、会報やインターネットを通じてPRするほか、各種助成金の紹介など、資金調達を支援します。
- さらに、チラシづくりや会計事務など、活動に役立つノウハウを学ぶための講座を開催します。
- 地域づくりを進めていく上では、NPOや市民団体の参画が不可欠です。この支援センターのオープンを機に、地域づくり活動が活発化し、本当の意味での協働のまちづくりにつながることを期待しています。

次に、市職員研修の公開について。

- 10月16日（月）、ヨリネスしばたの札の辻広場で、市職員が「普通救命講習会」を受講します。
- これは、市職員が研修の一環として、新発田地域広域消防本部の職員から、一次救命処置法などを学ぶもので、一般に公開するのは初めてです。
- 当日は、AEDによる心肺蘇生法や止血方法などを学ぶこととしており、職員自身の研修はもちろん、手続きなどで来庁した市民の皆さんに、救命講習の必要性をアピールすることもねらいの一つです。
- 今回は、市民の方の参加は予定していませんが、多くの方に救命救急の意義を考えるきっかけにさせていただきたいと考えています。

次に、羽越水害復興 50 周年記念事業について。

- 10月21日（土）、ヨリネスしばたで、羽越水害からの復興を記念して特設展示を行います。
- 当日は、羽越水害に関するパネルのほか、災害時に活躍する自衛隊や警察、消防の車両を展示します。また、限定 200 食で炊き出しの配布も行います。
- 先日も、大型の台風が日本列島を縦断したばかりです。この機会に羽越水害を振り返り、改めて災害について考える機会にさせていただきたいと思います。

次に、小学校の食育に関する事業を紹介します。

- 10月28日（土）、市内の小学 5・6 年生が、買い物から調理、後片付けを一人で行う「新発田っ子 弁当づくり道場」を実施します。
- 当市では、「小学 6 年生までに一人で弁当を作ることができる」ことを食育の目標としており、市内の全小学校で「弁当の日」に取り組むことを目指しています。

- 「弁当の日」は、子どもが自分で弁当を作って学校へ持って行き、みんなで食べる取組で、小学校の食育の集大成と位置づけています。
- この「弁当づくり道場」は、「弁当の日」を応援している株式会社ウオロクとの共催で毎年度実施しており、今年で5回目です。
- 当日は、スーパーウオロクの店頭で、店員から食材の選び方や買い物のポイントなどを教わります。
- その後、イクネスしばたで、新潟調理師専門学校^{ニギハチ}の吉田奈美さんに弁当づくりの指導を受け、出来上がった弁当は保護者と一緒に試食します。
- 子供たちの頑張る姿を、ぜひ取材していただきたいと思います。

このほかの情報としては、婚活イベントの第5弾「潟コン×Komachi 婚活サークル in しばた」の参加者募集があるほか、市島邸の照明器具にスポットを当てた企画展「文明開化の明りと暮らし」が開催中です。

イクネスしばたでは、エフエムポート主催の料理教室「クッキングラボ@イクネスしばた」や、切り抜いた絵を立体的に組み立てる「立版古^{たてばんこ}」の教室が開催されます。

また、札の辻広場では、おなじみの「しばた軽トラ市」や子育て中のお母さんも楽しめる「札の辻親子広場」、屋台街の雰囲気味わえる「札の辻酒場だよ 全員集合！」があるほか、恒例の「しばた100円商店街」があります。

さらに、全国のグルメや特産品が一堂に会する「全国うまいもん横丁」のほか、楽しみながら健康づくりを体感する「健康づくりフェスティバル」、のどかな田園を歩く「紅葉ウォーク」があります。

文化系のイベントでは、市最大の美術展である「新発田市美術展覧会」と「ジュニア展」があるほか、「新発田市芸術祭」と銘打って「らんちゅう展」と「秋季趣味の展示会」が開催されます。

また、市民団体が日ごろの成果を披露する「秋を彩るバレエ及び日舞・ダンス&ダンス」や「伝統芸能のつどい」、「秋の民謡とおどり」、「新発田マジック文化祭」があります。

ぜひ、1つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を盛り上げていただきたいと思います。

定例記者会見質疑応答概要

「蔵春閣」の寄贈について

新潟日報 場所についてのこれから検討ということだが、候補はあるか。

市長 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに間に合わせるために、できれば前年の秋、遅くともその年の春にはオープンさせたいと考えている。そこで、まずは関係課の職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、そこである一定の方向性が出た段階で、市民や有識者の皆さんに集まっていただき、案の中から選択していただくという形で進めたい。いずれにしても、観るだけの施設にはしたくない。蔵春閣は「迎賓館」としての役割があり、食事をしながら会談したというのが本来の意義であったので、そういう形で利活用したい。財団の「大倉集古館」館長の大倉喜彦さんからも、ぜひそうしてほしい、そこで食事をしたり、お酒を出したりする利活用を望むと言われた。その利活用によって、維持管理費くらいは賄いたいと思っている。

新潟日報 維持管理費は、年間どれくらい掛かるのか。

市長 まだそこは分からないが、建物そのものは、それほど維持管理費が掛からない。厨房やトイレなど、蔵春閣に無い施設は市費で造る。もう一つは外構工事である。元々の向島の別邸だったので、背景・ロケーションが大事である。そうすると、草刈りや庭木の剪定などの維持管理費の方が掛かるのではないかと。建物自体は、電気料などの維持管理費はあるが、建物の補修費などが毎年掛かるというものではない。むしろ人件費などに経費が掛かる。まだどのくらいコストが掛かるか分からないが、先ほど申し上げたような運営形態であれば、維持管理費くらいは賄えるのではないかと考えている。

新潟日報 延べ床面積が90坪ということであれば、敷地面積はかなり広い面積が求められることになると思うが。

市長 新発田の中でも、2、3か所に限定されるのではないかと。

- 読 売 確認だが、移築は 2019 年ということか。
- 市 長 最短で 2019 年の秋ということである。しかし、そこに合わせるのは時間的に相当厳しいと思う。建てるだけでも相当の時間がかかる。専門の大工が来て、泊まり込みで作業する。組み立てとは言え、簡単なものではない。協議が長くなるほど、着手が延びていく。2020 年の春にはオープンし、夏のオリンピック・パラリンピックには間に合わせたい。
- 新潟日報 逆算すると、来年の早いうちに着手することになるのか。
- 市 長 そうである。運営については、造っている間に協議できるが、場所の選定だけは急がないと困る。
- 新潟日報 オリンピック・パラリンピックでの具体的な使いかたに関する考えはあるか。
- 市 長 外国人の皆さんに日本の建築美を紹介するとともに、ランチなどが提供でると良い。少しはアルコールも提供できると良い。
- 新潟日報 観光資源としてということか。
- 市 長 そうである。そうでなければ、維持管理費を賄えない。大倉喜八郎の縁であるので、ホテルオークラのシェフが監修したランチなどが良いと思う。
- 読 売 9 月 25 日に申し出があったということか。
- 市 長 その日に、私が財団の理事長から正式に寄贈の書類一式を頂いた。
- 読 売 飲食以外での利活用は考えているか。
- 市 長 「大倉集古館」のサテライトとして使いえないか、美術品を貸してもらえないかと考えたが、それらを展示するには、展示に堪え得るだけの施設にしなければならない。そうすると、ガラス張りにしたり、湿度を調整したりと、全く仕様が違ってくる。美術館・博物館的な利用は、本来の蔵春閣の迎賓館としての機能が損なわれると思い、基本的には迎賓館の延長として観光に

利用するということになった。

新潟日報 ケータリングで料理を持ってきてもらうことも可能か。

市長 そういうこともあり得る。トイレと厨房の増築を考えている。

新潟日報 建物の雰囲気は損なわないように、別棟ということか。

市長 そうである。

新潟日報 耐震についてはどうか。

市長 一切法には掛からないそうである。組み立てるうえで、建築基準法云々ということはないと聞いている。基礎工事は、耐震部分を含んだ移築になると聞いている。

新潟日報 部材も、明治に建てられたときのものが残っているということか。

市長 その通り。

衆議院議員選挙について

新潟日報 市長の立場から、政策論争を含めて、どのような選択で臨むのか。

市長 今の国政の混乱を見てがっかりしている。政治の世界に入って40年近くになるが、一度も政党に所属したことはない。国は政党政治、イデオロギーが大事だが、地方に政党は必要ないだろうという考えで、いつも「新発田党」としてやってきた。応援してきた稲葉修先生や稲葉大和さんなども、自民党の代議士だから応援したということは一度もない。稲葉修先生が好きだったから応援し、その先生がたまたま自民党員だったということである。基本的には、保守か革新かを問われれば、保守的な考え方だが、一度として自民党に対して特別な思いを持ったことはない。しかし、今回思ったことは、自民党は決して好きではないが、我々の暮らし、日本の平和を任せられるのは自民党し

かないという感を強くしたことは事実である。そういう意味では、自民党に頑張ってもらいたいという気がする。それは、自民党がポイントを稼ぐようなことを言ったからではなく、批判すべき野党があまりにもひどいというのが実感だからである。安倍総理の、消費増税の2%分をどこに振り向けるかというのは、地方自治体の長としては興味がある。将来に備えた日本を作っていくのか、今、介護・医療・教育・福祉に充てるのか。今を救うのか、将来を救うのかの問題である。借金返済に充てるのであれば、それはそれで間違っていないが、介護保険料など見た時に、地方が肩代わりしている部分がある。このまま押し付けられていけば、持たない地方も出てくる。そういう意味では、今回消費増税分の使い道を考え直したいというのは、分からないわけではない。そこが争点にならずに、「安倍政権の暴走を止める」などの言葉が乱れ飛んでいるが、当市の決算では約2億円増収となったので、やっとならずかながらアベノミクスの恩恵が来たと思っており、政権が代わって、またゼロにされたのではかなわない。

胎内市長選挙について

新潟日報 新発田は広域連携という形で、定住促進などで連携を密にされているが、改めてどのように接したいか。

市長 井畑さんは総合政策課長で、定住自立圏の窓口だった。一緒に作ってきたという意味では熟知しているので、定住自立圏の関係はやりやすいのではないか。まだそれほど親しく話す機会がないので、これから懇意にしていきたいと思う。あまり違いなく前市長を継承していただけるのではないかと思っている。

新潟日報 面談等で、方向性を確認する機会を作るのか。

市長 近々来られるのではないか。間もなく阿賀北市長会もある。

「新発田市地域づくり支援センター」のオープンについて

新潟日報 開所当日、セレモニーは行うのか。

市長 事業自体はスタートしており、新しい建物を建てるわけでもないので、特に予定はしていない。

新潟日報 建物の中で、分かりやすくリニューアルはしたのか。

市長 事務室内の一角を配置換えし改装した。

「スタジアム満員プロジェクト」について

新潟日報 ユニフォームは、記者会見以降、6日から着るということか。

市長 そうである。基本的には、試合のある前日の金曜日に6回の職員が着る。

新潟日報 新発田市では初めてか。

市長 そうである。要請が来たのが、今年が初めてである。